

令和 2 年 度

事 業 計 画 書

自 令和 2 年 4 月 1 日

至 令和 3 年 3 月 3 1 日

公益財団法人 全日本空手道連盟

令和 2 年 度

事 業 計 画

1. 基本方針

世界各地で不幸な事件が相次ぎ、また国内各地では災害による事故被害の報道を見るたび平和平穏がいかに大切か、考えさせられる昨今である。本年は世界平和の象徴であるオリンピックゲームズ2020東京大会が開催される。空手道は追加種目として注目を浴びつつあり、スポーツ界・一般社会に明るい話題が増えていくことに期待している。さらに空手道を通してスポーツとしてのフェアプレイ精神、武道としての「礼と節」を重んじ、その精神を守り抜く「強い心とそれを支える強靱な体」をつくり育てること、それがこれからの日本の将来に必要であろう。

公益財団法人全日本空手道連盟では「生涯空手道、いつでも空手道、だれでも空手道」を目指し、老若男女、またハンディキャップを持つ方々をも含め、望む限り誰でも親しめる競技会や講習会を開催する。

また、中央競技団体として各種競技会での勝ち負け、技の優劣のみを競うのではなく、今後も大会を通して空手道の理念を求め活動する。

活動の拠点となっている全空連本部ともいふべき日本空手道会館は各種研修会、競技力向上強化練習、技術講習会等で広く活用し、連盟運営の面で大きな役割を果たしており、今年度も有意義に活用していく。

空手道を広く深く普及発展させるため、科学に裏付けられたスポーツとしての指導者育成にも努め、日本スポーツ協会と共催して公認スポーツ指導者の養成を積極的にすすめる、安全で効果的な指導方法の確立に努める。

競技会では進化するWKFルールを取り入れ、競技ルールの徹底により安全に配慮した誰もが納得するルールの運用に力を注いでいく。

平成24年度から中学校教育の中で武道が必修になり、本連盟では文部科学省並びに公益財団法人日本武道館の協力を得て「空手道指導の手引」を作成し、全国の教育委員会・中学校及び都道府県を含む連盟関係団体に配布してきた。地道な普及活動により、初年度の採用校は124校であったが昨年度までに309校の学校が空手道を採用するに至った。本年も教員を対象に指導者研修会を開催し、文部科学省や日本武道館の協力を得ながら多くの中学校で教科として採用して貰えるよう働きかけていく。

競技力の面では世界での競技レベルが高くなり、日本といえどもメダルを獲得する事が困難になってきている。空手母国日本として常に世界各国から注目されるよう強化をしていきたい。また、ルールが進化し、戦術も進化しなければならないことに鑑み、本年より情報戦略チームを立ち上げ、コーチ陣との連絡を密にし、来るべき東京オリンピックに向けて選手を強化する。

また、常にオリンピック参加を見据えて世界各国と協調し、競技としてだけでなく空手道を武道として普及していく。

昨年もスポーツに係る不祥事が相次いだ。本連盟も全国を統括する中央競技団体として、スポーツ庁が制定した「スポーツ団体ガバナンス・コード」に従いコンプライアンスを整備し、倫理問題に真正面から取り組む。

本年開催のオリンピック競技大会を契機に空手道人口を増やすべく、オリンピック対策本部を中心に広報戦略を打ち出し、幅広い層への空手道の認知に努める。

目的や使命を達成するために多くの事業を推進していく中で中央競技団体としてまた公益財団法人としてどうあるべきか常に考え、守るべきものを守り、発展させるべき所は改革し、安定した将来を見据えて経営に努めていく。また、女性理事を中心に、女性指導者の育成、女子選手の競技力向上など、連盟の運営発展に多岐にわたって活用していく。

経済的にいろいろ制約があるなか、オリンピック東京大会が成功すべく、また日本空手道会館を保持するためにいろいろな財源を模索し、無理のない運営に努めるつもりであり、その為に皆さんのご協力が不可欠と思われる。全空連を支えている地区協議会、都道府県連盟、競技団体、協力団体、友好団体そして会員の方々の賛同を得ながら財政の確保に努めたい。

予定している各種事業内容は次の通りである。

2. 計画

(1) 空手道の普及・奨励

空手道を愛好し、また空手道の素晴らしさを理解してくれる人を多く求めるために、都道府県連盟を中心とした各地区協議会・競技団体及び協力団体との密接な連携により、充実した内容のある競技会、審査会並びに研修会を実施し、地域社会に役立つ活気ある本連盟の構築を目指す。各事業の中心になっている日本空手道会館を有効に生かし未来への継続を確かなものにしていく。

(2) 指導者の育成

武道とスポーツ両面から、優れた指導者の育成と資質の向上を図るため、資格取得審査会及び研修会等々を開催し、さらにはその活用と活動の促進を図る。

(3) 選手の強化錬成

空手道母国日本として常に国際的競技力を高める為、シニアクラスは勿論、ジュニア層の育成と強化向上を目指し、少年期から一環した強化対策を確立する。国際大会にも積極的に参加させ、試合経験を積ませる。

(4) 全日本空手道選手権大会及び各種大会

生涯空手道、誰でもどこでも親しめる空手道として各種競技会は、非常に大きな意義をもっている。12月に開催する全日本空手道選手権大会は天皇盃・皇后盃を戴き“日本一”の覇を競う最高の技と力の舞台として位置づけられている。

今回第20回目となる全日本少年少女空手道選手権大会は2日間を要して、千葉ポートアリーナにおいて開催する。年々向上する技術には目を見張るところが多々あり、オリンピックを間近に控え、礼儀正しく競う少年少女達の夢のある大会として、また各地区で選抜された選手のあこがれの大会として、さらに充実した大会とする。

年々競技レベルが高くなってきた第15回全日本中学生空手道選抜大会は前年に引き続き埼玉県上尾市において開催する予定だが、礼儀の正しさをも競い合うような大会にしていく。

第75回国民体育大会・空手道競技会は、国民的祭典の趣を以って、簡素化をしながら内容を充実させた形で鹿児島県薩摩川内市に於いて開催する。

生涯スポーツの振興を目的として、日本スポーツマスターズ2020は第20回目をマスターズ世代の希望を乗せて愛知県豊田市にて、フルエントリーを目指して充実した大会とする。

第16回全日本障がい者空手道競技大会も、多くの選手の参加を募って意義ある大会とする。

(5) 組織の充実と財政の確立及び広報活動の強化

組織の運営には内容の充実と財政の確立が不可欠である。根本になる会員の増加と事業の拡充は常に必要である。都道府県連・競技団体・協力団体をはじめ関係諸団体の協力のもとに、諸事業の見直しや有効で効率のよい事業を遂行し、安定した財政基盤の確立に努め、必要な支援を行う。

また、当連盟の事業活動を知ってもらう為、空手道を理解してもらうためにも、広報機関との連携を密にし、機関紙の発行のみならず広範な広報活動を積極的に展開する。本年はオリンピックイヤーであり、これをきっかけにして空手道の認知を広めるべく、オリンピック対策本部が中心となって広報戦略を展開する。さらに、本連盟の事業活動に関する情報・資料を集約し、JKFホームページや情報誌「ナイスカラテライフ」を通じ、広く一般に提供して、会員の広範な理解と関心の増進のための広報活動を積極的に展開する。

(6) 国際組織との連携及び諸外国との交流

空手競技が恒久的にオリンピック種目として採用されるよう、機会がある毎に活動していく。その為にはまずアジア空手道連盟（AKF）の一員として積極的にその役割を果たし、世界の空手道の普及と振興に努める。

世界の国々で必要とされる技術の向上や組織の充実などできる限りの支援を行い、国際競技会及び講習会には積極的に招聘に応じ選手や技術者を派遣する。

3. 事業実施概要

(1) 大会の開催(共催を含む)、実施、参加

ア. 内閣総理大臣杯 第48回全日本空手道選手権大会(団体戦)の開催

開催年月	令和2年12月12日
開催場所	東京都 東京武道館
出場選手	517名
競技種目	内閣総理大臣杯 都道府県対抗 男子・女子組手団体戦
後援 (予定)	スポーツ庁、公益財団法人日本スポーツ協会、 (公財)日本オリンピック委員会、 (公財)日本武道館、日本武道協議会、 NHK、読売新聞社、報知新聞社、 (公財)笹川スポーツ財団、 (公財)ブルーシー・アンド・グリーンランド財団 【(独)日本スポーツ振興センタースポーツ振興基金助成事業】

イ. 天皇盃・皇后盃 第48回全日本空手道選手権大会(個人戦)の開催

開催年月	令和2年12月13日
開催場所	東京都 日本武道館
出場選手	140名
競技種目	天皇盃・皇后盃 男子・女子組手 及び 文部科学大臣旗 男子・女子形個人戦
後援 (予定)	スポーツ庁、公益財団法人日本スポーツ協会、 (公財)日本オリンピック委員会、 (公財)日本武道館、日本武道協議会、 NHK、読売新聞社、報知新聞社、 (公財)笹川スポーツ財団、 (公財)ブルーシー・アンド・グリーンランド財団 【(独)日本スポーツ振興センタースポーツ振興基金助成事業】

テレビ放映 NHK総合による生放送(予定)

ウ. 第75回国民体育大会(燃ゆる感動かごしま国体)の実施

開 催 年 月 令和2年10月4日～6日 3日間
開 催 場 所 鹿児島県薩摩川内市 薩摩川内市総合運動公園総合体育館
(サンアリーナせんだい)
参 加 選 手 414名(監督含む)
競 技 種 目 成年男子・女子組手及び形個人戦
少年男子・女子組手及び形個人戦
男子女子混合組手団体戦

【鹿児島県実行委員会委託事業】

エ. 日本スポーツマスターズ2020(愛媛大会)空手道競技の実施

開 催 年 月 令和2年9月19日～21日 3日間
開 催 場 所 愛媛県松山市 愛媛県武道館
参 加 選 手 650名
競 技 種 目 男子・女子組手及び形個人戦

【公益財団法人日本スポーツ協会委託事業】

オ. 第16回全日本障がい者空手道競技大会の開催

開 催 年 月 令和2年9月26日
開 催 場 所 東京都(東京武道館)
参 加 選 手 200名
競 技 種 目 男子・女子組手及び形個人戦
後 援 スポーツ庁、厚生労働省、公益財団法人日本スポーツ協会、
(予 定) (公財)日本オリンピック委員会、(公財)日本武道館、
日本武道協議会、東京都、(公財)東京都体育協会、
(公財)日本障がい者スポーツ協会、読売新聞社、
(公財)笹川スポーツ財団、
(公財)ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

【(公財)スポーツ安全協会助成事業】

カ. 高等学校空手道大会の共催

a. 第47回全国高等学校空手道選手権大会

開催年月	令和2年8月9日～12日
開催場所	群馬県 ALSOK ぐんまアリーナ
参加選手	850名
競技種目	男子・女子組手及び形個人戦 男子・女子組手団体戦

b. 第39回全国高等学校空手道選抜大会

開催年月	令和3年3月23日～26日
開催場所	東京都 東京体育館
参加選手	1,100名
競技種目	男子・女子組手及び形個人戦 男子・女子組手及び形団体戦
後援 (予定)	スポーツ庁、(公財)日本オリンピック委員会、 (公財)日本武道館、東京都、東京都教育委員会、 (公財)東京都体育協会ほか

【JOCジュニアオリンピックカップ事業】

キ. 全国中学生空手道選手権大会の共催

a. 第28回全国中学生空手道選手権大会

開催年月	令和2年8月21日～23日
開催場所	山口県 維新大晃アリーナ
参加選手	1,300名
競技種目	男子・女子組手及び形個人戦 男子・女子組手及び形団体戦

b. 第15回全国中学生空手道選抜大会

開催年月	令和3年3月(予定)
開催場所	埼玉県 埼玉県立武道館(予定)
参加選手	1,128名
競技種目	男子・女子組手及び形個人戦
後援	スポーツ庁、総務省、
(予定)	公益財団法人日本スポーツ協会、(公財)日本オリンピック委員会、(公財)日本武道館、日本武道協議会、NHK、読売新聞社、(公財)笹川スポーツ財団、(公財)ブルーシー・アンド・グリーンランド財団、(公財)日本中学校体育連盟、全国中学校空手道連盟、 【JOCジュニアオリンピックカップ事業】

ク. 第43回全日本少年少女武道(空手道)錬成大会

開催年月	<改修工事のため中止>
開催場所	—
参加選手	—
競技種目	—

【(公財)日本武道館との共催】

ケ. 第20回全日本少年少女空手道選手権大会の開催

開催年月	令和2年7月23日～24日	2日間
開催場所	千葉県 千葉ポートアリーナ	
参加選手	2,200名	
競技種目	男子・女子組手及び形個人戦	
後援	スポーツ庁、公益財団法人日本スポーツ協会、	
(予定)	(公財)日本オリンピック委員会、(公財)日本武道館、日本武道協議会、NHK、読売新聞社、(公財)ブルーシー・アンド・グリーンランド財団、(公財)笹川スポーツ財団	

コ. 第25回世界空手道選手権大会への参加

開催年月 令和2年11月17日～22日
開催場所 アラブ首長国連邦 ドバイ
参加国 110ヶ国
日本選手団 60名
競技種目 男子・女子組手及び形個人戦
男子・女子組手及び形団体戦

【(公財)日本オリンピック委員会委託事業】

【(独)日本スポーツ振興センター委託事業】

サ. 第17回アジア空手道選手権大会への参加

開催年月 令和2年9月4日～6日
開催場所 インドネシア バリ
参加国 35ヶ国
日本選手団 55名
競技種目 男子・女子組手及び形個人戦
男子・女子組手及び形団体戦

【(公財)日本オリンピック委員会委託事業】

【(独)日本スポーツ振興センター委託事業】

シ. 第19回アジアカデット、ジュニア&-21空手道選手権大会の開催

開催年月 令和2年7月10日～12日
開催場所 クウェート
参加国 30ヶ国
日本選手団 60名
競技種目 男子・女子組手及び形個人戦

【(公財)日本オリンピック委員会委託事業】

【(独)日本スポーツ振興センター委託事業】

ス. 第32回オリンピック競技大会への参加

開催年月 令和2年8月6日～8日
開催場所 東京都 日本武道館
参加国 30ヶ国
日本選手団 20名
競技種目 男子・女子組手及び形個人戦

【(公財)日本オリンピック委員会派遣事業】

セ. プレミアリーグへの参加

	大会名	開催時期	開催場所
a.	プレミアリーグ 2021 パリ大会	令和3年1月 (予定)	フランス パリ
b.	プレミアリーグ 2021 ドバイ大会	令和3年2月 (予定)	アラブ首長国連邦 ドバイ

※日本選手団人数は未定。

【(公財)日本オリンピック委員会委託事業】

【(独)日本スポーツ振興センター委託事業】

ソ. シリーズAへの参加

	大会名	開催時期	開催場所
a.	シリーズA 2020 イスタンブール大会	令和2年6月19-21	トルコ イスタンブール

※日本選手団人数は未定。

【(公財)日本オリンピック委員会委託事業】

【(独)日本スポーツ振興センター委託事業】

(2) 選手強化合宿の実施

ア. シニア強化選手国内合宿・強化選手等選考会

選手選考会を実施し、ナショナルチームを編成、東京オリンピック、世界選手権大会等の国際競技会において優秀な成果を挙げるため、競技力向上を図る。

	名称	時期	日数	場所	参加人数	備考
a.	オリンピック代表内定選手合宿	R2. 4 中旬	7 日間	日本空手道会館	40 名	
b.	オリンピック代表内定選手合宿	R2. 5 月上旬	7 日間	沖縄・京都・新潟	40 名	性別・種目別を実施
c.	オリンピック代表内定選手合宿	R2. 5 下旬	7 日間	日本空手道会館	30 名	組手選手対象
d.	アジアシニア選手権大会代表選考会	R2. 6	未定	日本空手道会館	60 名	
e.	オリンピック代表内定選手合宿	R2. 6 中旬	7 日間	沖縄	10 名	形選手対象
f.	オリンピック代表内定選手合宿	R2. 7 月上旬	7 日間	日本空手道会館	30 名	組手選手対象
g.	オリンピック代表内定選手合宿	R2. 7 下旬	7 日間	日本空手道会館	40 名	
h.	オリンピック代表内定選手合宿	R2. 8. 3～8. 5	3 日間	日本空手道会館	40 名	
i.	アジアシニア選手権大会代表合宿	R2. 8	未定	日本空手道会館	50 名	アジアシニア選手権代表選手対象
j.	世界選手権大会代表選考会	R2. 9	未定	日本空手道開会	10 名	
k.	世界選手権大会代表合宿	R2. 10. 30～11. 1	2 日間	日本空手道会館	50 名	
l.	2021 年シニア選手選考会	R2. 12	3 日間	日本空手道会館	200 名	
m.	シニア全体オリエンテーション合宿	R3. 1	未定	日本空手道会館	80 名	

※オリンピック代表内定候補選手は練習パートナーを自ら選定し、合宿に同行させることができる。

【(公財)日本オリンピック委員会委託事業】

【(独)日本スポーツ振興センター委託事業】

イ. ジュニア国内合宿・強化選手等選考会(カデット、ジュニア、U-21)

選手選考会を実施し、ナショナルチームを編成し、アジアカデット、ジュニア&U-21 選手権大会において優秀な成果を挙げるため競技力向上を図る。また 2021 シーズンの国際大会でのメダル獲得を見据え、アジアカデット、ジュニア&U-21 選手権大会後も引き続き強化を行う。

	名称	時期	日数	場所	参加人数	備考
a.	ジュニア強化選手選考会	R2. 4. 17 ～4. 19	3 日間	日本空手道会館	250 名	アジアカデット、ジュニア&U-21 大会代表選考を同時に実施
b.	第1回ジュニア合宿	R2. 6. 8～ 6. 10	3 日間	日本空手道会館	50 名	アジアカデット、ジュニア&U-21 代表選手対象
c.	第2回ジュニア合宿(アジアカデット、ジュニア&U-21 大会事前合宿)	R2. 7. 5～ 7. 7	3 日間	日本空手道会館	60 名	アジアカデット、ジュニア&U-21 代表選手対象
d.	第3回ジュニア合宿	R2. 9	3 日間	日本空手道会館	80 名	
e.	第4回ジュニア合宿	R2. 11	3 日間	日本空手道会館	80 名	

【(公財)日本オリンピック委員会委託事業】

【(独)日本スポーツ振興センター委託事業】

ウ. オリンピック代表内定選手拠点合宿

	名称	時期	日数/ 回数	場所	参加 人数	備考
a.	オリンピック 代表内定選手 拠点強化合宿	R2. 4～7	制限な し	各拠点(関西・関東)	32人	オリンピック代表内定 選手8名の拠点で担当 コーチが指導及び現状 把握を行う。

※本年は2020年東京五輪開催年にあたり、その目標達成のために強化拠点において選手とコーチングスタッフが日常からの強化練習、医科学支援体制を築き競技力向上を図る。またオリンピック代表内定候補選手は練習パートナーを自ら選定し、大会・合宿に同行させることができる。

エ. 海外チーム合同合宿

	名称	時期	日数	場所	参加人数	備考
a.	セルビアナショナル ルチーム合同合宿	R2. 4 下旬	5日間	セルビア	10名	シニア男子組手選手 を派遣
b.	海外合同合宿	R2. 6	未定	ヨーロッパ	40名	シリーズAイスタンブール大会前後に実施

※海外強豪チームと合同合宿を行い競技力向上を図る。

【(公財)日本オリンピック委員会委託事業】

【(独)日本スポーツ振興センター委託事業】

(3) 公認審判員講習・審査会の開催

ア. 全国公認組手審判員講習・審査会

開催回数	2回
開催年月	令和2年4月（東京4日～5日、大阪11日～12日）
開催場所	東京・大阪会場 各1回
受講・受審者数	720名
講習内容	組手審判技術の向上と全国公認組手審判員の資格取得のための講習及び審査

イ. 全国公認形審判員講習・審査会

開催回数	1回
開催年月	令和2年5月2日・3日
開催場所	東京会場
受講・受審者数	90名
講習内容	形審判技術の向上と全国公認形審判員資格取得のための講習及び審査

ウ. 全国・地区公認組手及び形審判員講習・審査会

開催回数	9地区 各1回
開催年月	令和2年4月～令和3年3月
開催場所	各地区協議会にて実施
受講・受審者数	950名
講習内容	組手及び形審判員の技術の向上と地区公認審判員の資格取得のための講習及び審査

エ. 全国形審判員養成講習会

開催回数	1回
開催年月	令和2年7月
開催場所	日本空手道会館
受講・受審者数	90名
講習内容	令和3年度から実施予定の全国形審判員A級ランク付け審査の受審のための講習

(4) 公認段位・推薦段位審査会、公認称号審査会の開催

ア. 公認4段位、公認5段位審査会

開催回数	9地区協議会及び実業団・高体連各1～2回
開催年月	令和2年4月～令和3年3月
開催場所	各地区協議会及び実業団・高体連
受講・受審者数	550名
審査内容	形(指定形、自由形)及び組手の実技審査

イ. 公認6段位、公認7段位審査会

開催回数	2回
開催年月	令和2年5月、11月
開催場所	日本空手道会館（5月23日・24日）、 大阪会場（大阪府立体育館、11月14日・15日）
受審者数	200名
審査内容	筆記試験と形の演武及び組手の実技審査（6段位のみ） により、高段者としての人格と技術の適格性を審査

ウ. 公認8段位審査会

開催回数	1回
開催年月	令和2年5月24日
開催場所	日本空手道会館
受審者数	50名
審査内容	小論文と形の演武により、高段者としての 人格と技術の適格性を審査

エ. 公認9段位審査会

開催回数	1回
開催年月	令和3年3月
開催場所	日本空手道会館
受審者数	若干名
審査内容	特別選考委員会による審査

オ. 公認推薦段位審査会

開催回数	1回
開催年月	令和2年12月11日
開催場所	日本空手道会館 会議室
受審者数	5名～10名
審査内容	推薦段位規程に基づく書類審査

カ. 公認称号審査会

開催回数	1回
開催年月	令和2年12月11日
開催場所	日本空手道会館 会議室
受審者数	110名
審査内容	公認称号規程に基づく書類審査

(5) 公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会・更新義務研修会の開催

ア. 公認空手道コーチ3 専門科目講習会

開催回数	2回(前期・後期)
開催年月	前期：令和2年10月16日～18日 後期：令和2年12月18日～20日
開催場所	日本空手道会館
受講者数	70名
講習内容	種目の特性に応じた基礎理論、実技、指導実習 【公益財団法人日本スポーツ協会委託事業】

イ. 公認空手道コーチ4 専門科目講習会

開催回数	1回
開催年月	令和3年1月15日～17日
開催場所	日本空手道会館
受講者数	50名
講習内容	種目の特性に応じた基礎理論、実技、指導実習 【公益財団法人日本スポーツ協会委託事業】

ウ. 公認空手道コーチ1・コーチ2 専門科目講習会

開催地数	事業実施団体数
開催年月	令和2年4月～令和3年3月
開催場所	実施会場5～6都道府県
受講者数	各30名
講習内容	種目の特性に応じた基礎理論、実技、指導実習

エ. 公認空手道コーチ3・コーチ4 更新研修会

開催回数	2回
開催年月	令和2年9月6日、令和3年3月6日
開催場所	日本空手道会館
受講人員	230名
講習内容	体育理論、実技（基本形1・2・3・4）

オ. 公認空手道コーチ1・コーチ2 更新研修会

開催回数	9地区 各1回
開催年月	令和2年4月～11月
開催場所	各地区にて実施
受講人員	580名
講習内容	講義・講演・研究協議、実技（基本形1・2・3・4）

(6) 講習会・研修会の開催

ア. 第11回全国指導者研修会

開催年月	令和2年8月16日～18日	3日間
開催場所	日本空手道会館	
参加人員	80名	
研修内容	基本技術、安全対策、中学校空手道授業での指導実践法	

【(公財)日本武道館との共催】

イ. 中学校武道授業指導法研究事業

開催年月	令和2年11月
開催場所	未定
参加人員	15名
研修内容	指導計画、指導内容、指導法、評価等について、教育効果の上がる武道授業（空手道）指導法の研究 【(公財)日本武道館との共催】

ウ. 学校空手道実技指導者講習会

開催年月	令和2年8月
開催場所	未定
参加人員	30名
講習内容	解説(スポーツ庁教科調査官)、講義(空手道の特性、基本・移動基本動作、中学校武道指導実践法、形の指導法)、段位認定 【スポーツ庁との共催】

エ. 空手道授業資質向上研修会

開催地数	3～4カ所
開催年月	令和2年6月～令和3年2月
開催場所	市区町村単位で3～4カ所
参加人員	授業協力者および中学校教諭のべ60～80名
講習内容	空手道模擬授業体験、空手道授業見学 【スポーツ庁委託事業】

オ. 授業協力者全国連絡協議会

開催地数	1～2カ所
開催年月	令和2年6月～令和3年2月
開催場所	日本空手道会館他
参加人員	授業協力者20～30名
講習内容	空手道授業の実践事例報告、指導法の研究 【スポーツ庁委託事業】

カ. 1・2級資格審査員研修会

開催年月	令和2年9月5日
開催場所	日本空手道会館
参加人員	70名
研修内容	資格審査員の空手道資質向上のための技術研究と実技

キ. 3級資格審査員研修会

開催回数	9地区 各1回
開催年月	令和2年4月～令和3年3月
開催場所	各地区にて実施
受講人員	480名
講習内容	講義・研究協議、実技研究（基本形1・2・3・4）

ク. 公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講師競技別
全国研修会

開催年月	令和3年2月
開催場所	三重県
参加人員	40名
研修内容	公認スポーツ指導者養成の講師となり得る 指導者の研修

【公益財団法人日本スポーツ協会委託事業】

ケ. 流派別形講習会

開催年月	令和3年3月13日・14日
開催場所	日本空手道会館
参加人員	280名
講習内容	技の意味と分解 4大流派の伝統的な技と精神を習得するための講習

コ. 女性会員対象技術講習会・審判講習会

開催年月	令和3年1月9日・10日
開催場所	日本空手道会館
参加人員	130名
講習内容	形講習、審判講習

(7) 技術関係事業

段位、指導に関する事業の円滑な運営を図るため、中央技術委員会を開催する。また公益法人として各種技術規程を確立する。空手道の伝統的技術の正しい伝承と習得のための、研修会・資格審査会を開催し、広く公認指導者の育成ならびに質的向上に努めるとともに、教範・DVDの有効な活用をさらに推進する。

(8) 審判技術関係事業

国内及び世界の競技会において厳正にして正確な判定のできる高い技術と権威ある審判員を育成するための、講習会・審査会を開催する。空手は一つ・ルールは一つというスローガンのもとにWKFルール改正に対応していく。また選手強化委員会に協力して競技力の向上に寄与することとする。

(9) 選手強化事業

本年は東京オリンピック競技大会空手競技を視野に入れ、トップ選手の強化育成により力を入れるようにし、財政面でもバックアップ体制を作るとともに金メダルの獲得のために選手の強化を図る。また、11月の世界選手権に向け選手の強化を図るとともに、ジュニア及びカデット層からシニアに至る一貫した強化策を確立する。

ア. 大会視察並びに意見交換

ヨーロッパ選手権など国際大会等を視察することで情報戦略を推進し競技力向上を図る。また国内の各種全国大会(全日本学生選手権等)を視察することで国内の競技力の現状を把握するとともに各所属指導者との情報交換を進める。

	名称	時期	日数	場所	参加人数	備考
a.	国際大会等視察	R2.4～	未定	ヨーロッパ	若干名	ヨーロッパ選手権等
b.	国内大会視察	R2.4～	未定	国内	若干名	全日本学生選手権等
c.	東京2020出場権獲得 トーナメント大会視察	R2.5.8～ 5.10	未定	フランス・パリ	5名	

イ. 次世代ターゲットスポーツの育成支援事業

(独)日本スポーツ振興センターの委託を受け、次世代アスリート育成・強化プランを策定し、パリ2024オリンピック競技大会においてメダル獲得の可能性のある選手を対象として、HPSの支援のもと、次世代を担う選手を強化・育成する。

【スポーツ庁委託事業】

【(独)日本スポーツ振興センター委託事業】

(10) 指導員海外派遣事業

いまや世界200に近い国と地域に普及・発展を遂げた空手道であるが、これからも海外からの招聘に誠意を持って派遣し、もって国際親善に寄与するものとする。そのため、必要に応じての適材な指導者を派遣できる体制を整備する。

(11) 医科学関係事業(アンチ・ドーピング推進活動)

アンチ・ドーピング機構の支援のもと、競技会並びに検査プログラムに対応でき得るようナショナルチーム強化選手に徹底を図り、正確な知識の習得を促進させる。

アンチ・ドーピング委員の中から医科学関係分野の委員を育成し、また、選手強化委員会とも連携し、講習会の開催並びに資格取得を推進し、強化選手はもちろん幅広い世代に、健康増進と指導者の専門的知識の習得を図る。

ア. ドーピング検査(アンチ・ドーピング推進事業)

一般社団法人日本スポーツフェアネス推進機構を通じて年1回行う予定である。

イ. ドーピングに関する講習会(アンチ・ドーピング推進事業)

a. シニア対象

開催年月	令和3年1月(全体オリエンテーション合宿内)
開催場所	日本空手道会館
参加人員	各80名
講習内容	アンチ・ドーピングに関すること

b. ジュニア対象

開催年月	令和2年6月
開催場所	日本空手道会館
参加人員	各80名
講習内容	アンチ・ドーピングに関すること

(12) 空手道調査研究事業

空手道の歴史・伝統・文化に関する調査・研究を行い、資料として全日本空手道連盟に保存していく。

(13) 広報誌の発行

機関誌「ナイスカラテライフ」を発行し、連盟の事業内容、活動の状況、加盟団体や協力団体の情報を紹介し、会員の修練や指導に役立て空手道の発展振興を推進する。また、同誌に中学校向け情報「あゆみ」を掲載し、空手道をよりやさしく、楽しく役立つ誌面となるよう心がけ、教育現場に直接に渡るように配慮し、空手道の普及振興に役立てる。

発行回数	年2回
発行部数	1回 50,000部
配布先	会員、都道府県教育委員会、全国中学校、都道府県連盟、競技団体、協力団体、関係団体、報道関係等

(14) 世界空手連盟(WKF)、アジア空手連盟(AKF)、及び東アジア空手道連盟(EAKF)との連携と、外国関係諸団体との交流推進

ア. WKF、AKF及びEAKFのリーダー的役割であることを認識し、各国の諸会議に代表役員を派遣し、空手道の普遍的な発展と振興を推進する。

また国際競技会や研修会等の事業に積極的に参加して、国際親善を通じて、人類の平和と繁栄のための空手道の確立に寄与する。

イ. 世界の空手道の主導的中心的な立場を自覚して、空手道の正確で高い技術の修得と普及のため、海外の競技会及び研修会に選手・役員並びに技術指導者を積極的に派遣する。

わが国の空手道が正統かつ伝統的技術をもって世界の空手道の発展に協力し、空手道が競技化の方向を主体として推進する中で、空手道のもつ精神の意義を自らの姿勢で主張し武道性を失わないよう理解を求めていく。

ウ. 恒久的に空手道がオリンピック種目になるために、WKF及びAKFの強い連携を促すもととなり、国際オリンピック委員会（IOC）及び日本オリンピック委員会（JOC）の厚い信頼関係と協力をもとにこれからも積極的に促進運動を行ない、実現に向けて最大の努力をする。

（15）オリンピック対策本部

2020年東京オリンピック空手競技の成功と、空手道の世界的な認知度のアップのために以下の活動を行う。

ア. 2020年東京オリンピック空手競技への全面的協力体制の構築

東京五輪空手競技の大成功を確実にするため、組織委員会の活動を人的支援やWKFとの協力をを行い、側面から全力でサポートする。

イ. メディア対応・マーケティング戦略の強化充実

従来の広報活動に加え、スポーツ庁が(株)ビズリーチへ委託している「スポーツ団体経営力強化推進事業」を利用し、専門知識を有する外部人材を登用する。そして、専門家を中心として対策本部を基盤とした広報チームを編成し、内外広報活動の強化・充実を図る。

a. ムービープロジェクト

競技ルールの浸透、競技人気の強化、選手認知の強化という3つのテーマで動画を作成する。

【(独)日本スポーツ振興センター・スポーツ振興くじ助成事業】

b. SNSプロジェクト

SNSを活用し、「空手」のブランド化を図る。

【(独)日本スポーツ振興センター・スポーツ振興くじ助成事業】

c. 企業リレーションプロジェクト

スポンサー企業の広報担当との関連を強化し、空手道の認知度を高める。

ウ. 武道ツーリズム事業

スポーツ庁が提唱する“武道ツーリズム”に対し積極的に取り組み、日本空手道会館などを拠点とした具体策を検討し、2020年以降も継続できる事業の柱として事業化する。

エ. 本年度以降の活動

東京オリンピック対策本部規程に基づき、本年度末で対策本部は解散する。以降についてはJSOS事務所を基盤として広報関係事業を中心に活動していく。